

タンザニア難民救援活動

助産師 長谷川 文

派遣地域:タンザニア

派遣期間:2007年5月~2007年11月

日本赤十字社はタンザニア赤十字社の難民支援事業に対し、人と資金の支援を行っています。今回、私はタンザニア赤十字社の支援するタンザニア北西部キゴマ州の3ロケーションの難民キャンプで、国際赤十字の保健要員研修生として6ヶ月活動してきました。

タンザニアはアフリカ大陸の東海岸のほぼ中央に位置する、日本の約2.5倍の面積を持つ国です。アフリカ最大の難民受入国であり、約60万人の難民を受け入れています。これは世界の難民の4分の1の人口に相当します。私の活動した難民キャンプでは、隣国のコンゴ民主協和国とブルンジ共和国からの難民を受け入れていました。

派遣中に行った活動は、コンゴ人難民医療スタッフへの看護知識・技術ベースアップトレーニングの実施と評価や病棟のスタッフマネージメントなど、そして日本赤十字社支援予算のモニタリングと来年度予算案の作成でした。その他キャンプ運営に関する会議への出席、他の国連などの国際機関、NGOの活動をみる機会もあり、難民キャンプについて学習してきました。

難民スタッフの看護トレーニングは、前任者の企画を引き継ぎ、104名のコンゴ人スタッフを対象にトレーニングの実施、計画修正、再実施そして評価を行いました。実際に教えるのはタンザニア人スタッフであったため、私は主に運営のマネージメントと物品補充などを行いました。終了時には参加者に終了証明書を発行しました。

本研修を通して、コンゴ人スタッフの基礎的な知識・技術のレベルアップが図れた、というプラスの評価が得られました。徐々にマネージメントもタンザニア赤十字社にハンドオーバーできるよう調整し、今後も彼ら自身の手で継続して研修が行われてゆくよう、活動中です。

保健事業のマネージメントとは、州レベルの保健会議への出席や、3ロケーションの難民キャンプの保健施設を巡回し、タンザニア赤十字社の保健責任者と問題点・改善点について話し合うことなどです。具体的には重症・要注意患者のいる病棟へのスタッフの優先配置、重症患者ケアのフォロー、新生児蘇生キットの作成・トレーニングの推進、未熟児成長モニタリングの改定などを行いました。

タンザニア赤十字社スタッフも、そうした工夫の必要性は十分理解しているにもかかわらず、な

かなかルーティーン業務から抜け出せない部分がありました。しかしながら、前任者を含め、私たちのように日本赤十字社から派遣された要員からの客観的な視点も加わることで、変革することが容易になりました。

日本赤十字社の支援している事業のフォローは、今年度予算の使用状況を確認し、まだ使用されていないものや現場に物が届いていないものに関してその理由を突き止め、物流が出来るだけスムーズに流れるよう手配することなどです。また予算再編成の必要な箇所に関しては、現場で実物をまず見てから担当者と話し合い、タンザニア赤十字社本社・日本赤十字社本社との連絡調整をしました。

来年度予算の編纂では各キャンプを巡回し、日赤が特異的に支援できる箇所について話し合い、出来るだけ現場のニーズが予算案に反映されるよう、タンザニア赤十字社の難民支援事業の代表者をカウンターパートとして、現場スタッフ・本社の両サイドと掛け合い調整しました。

また難民キャンプ全体の運営については、各国連機関のキャンプ担当官や NGO の代表者の集まる会議に出席して、タンザニア赤十字社の保健担当として情報収集・意見交換をしました。このような会議を通し、国連機関や世界規模の NGO、タンザニア国内の NGO のスタッフと知り合うきっかけになり、難民支援事業というひとつのプロジェクトの中でそれぞれの機関がどのような活動を行っているのか、どのような理念を持って活動を推進しているのかを知る機会になりました。そして他機関同士の連携の重要性を再確認しました。

赤十字は世界中に支社を持つ国際組織です。今回私は日本赤十字社の要員として、タンザニア赤十字のスタッフと協働し、その他、スペイン赤十字、アメリカ赤十字、フランス赤十字の要員や国際赤十字委員会の要員とも綿密な連携をとりながら、公私を共にして活動していました。みなバックグラウンドは異なりますが、“赤十字”という大きなムーブメントのなかで同じ7原則を胸に活動しています。世界中にこのような仲間がいるということは、赤十字スタッフとして働く上で、とても大きな力であり、誇りでもあります。

世界中どこで活動していても、赤十字の一員であるということに誇りと責任を持ち続けたいと思います。



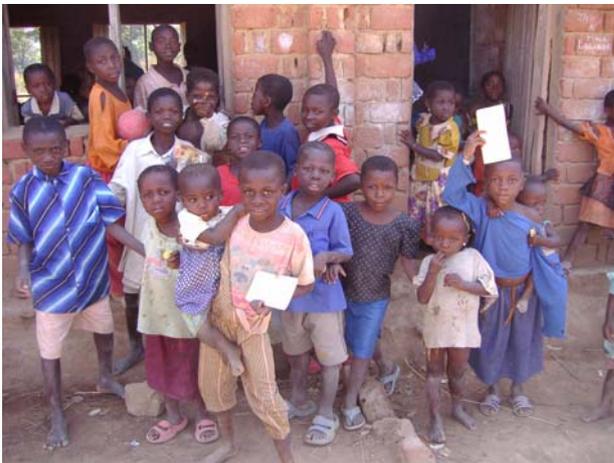
タンザニア赤十字社のスタッフと話し合う長谷川助産師



乳児の世話をする長谷川助産師



国際赤十字の支援で建築された水道



ビタミン摂取教育プログラムに集う子どもたち